

平成 26 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名		事業コード 080316		機能訓練事業		担当部課 健康づくり支援課 グループ 健康づくり第2G	部課コード	080300	TEL	2991-1813
開始年度		平成 9 年度		→			終了年度		平成 年度	
②事業の種別		<input type="checkbox"/> 自治事務		<input checked="" type="checkbox"/> 法定受託事務			<input type="checkbox"/> 法定受託+附加		根拠法令	
分野別計画・指針		健康日本21所沢市計画						健康増進法		
関連・類似事業		訪問指導事業、健康相談事業、健康教育事業、介護予防事業								
総合計画の体系		章 健康・福祉		節 保健・医療		基本方針		生涯を通じた健康づくりを支援します。		
事業開始の背景		平成10年度の保健センター開設に伴い、機能訓練室を整備し事業を開始した。 平成20年度の医療制度改革に伴い、老人保健法が廃止され、健康増進法に基づき実施することとなった。								
③事業の内容		目的(どのような効果を目指して実施しているのか、具体的に)		心身の機能が低下している方で、医療終了後も機能訓練の必要な方に対し、心身の機能の維持回復を図るために必要な訓練を行い、日常生活の自立を支援することを目的とする。又、自主的な社会参加が困難な方に対し、就労や社会参加に向けて訓練することを目的とする。						
対象(誰を、何を対象としているのか)		40歳以上65歳未満の方		対象数	単位	平成 24 年度	119,086	人		
						平成 25 年度	118,861	人		
事業の具体的な内容及び実施方法		【基礎コース】 対象要件:原則として40歳以上65歳未満で、脳卒中等により心身の機能が低下した退院後間もない方/会場:保健センター /週1回(6ヶ月間)の日常生活動作訓練等実施、在宅生活への定着を目指す。 ①理学療法…基本動作訓練(歩行、起上がり等) ②作業療法…日常生活動作訓練(食事・衣類の着脱等) ③精神的自立を促す個別指導、趣味活動、仲間づくりの支援、情報提供 ④機能を維持していくための自主訓練指導等 ⑤家族の日…家族同士の交流の場、疾病の理解を促し、介護についての学びの場 【ステップアップコース】 対象要件:60歳未満で、社会参加(就労含む)のための訓練を希望する方/自己通所による週1回(1年間) ①実用的な移動手段の確保のための歩行訓練、自主訓練 ②生活リズムを整え家事を含めた生活全般の自立に向けた訓練 ③就労に向けての作業活動④余暇活動として集団訓練								
④経費		<会計種別>	一般会計	平成 24 年度 (千円)	平成 25 年度 (千円)	平成 26 年度 (千円)	※「財源内訳」について 平成26年度のみ、当初予算の内訳となっています。			
当初予算				9,422	6,724	6,851				
決算(見込み含む)				5,302	5,195					
(非常勤特別職員)		(臨時任用職員)		(0.00 人)	(1.25 人)	(0.00 人)	(1.00 人)			
正規職員人件費				2.58 人	22,864	1.90 人	16,887			
事業費合計				28,166	22,082					
財源内訳		一般財源		27,673	21,549	6,851				
		国・県支出金		493	533					
		その他()		0	0	0				
⑤実績		項目名	項目説明	単位	H 24	H 25	H26見込み	将来目標		
活動実績		リハビリ教室	実施回数	回	87	83	88	88		
		リハビリ教室	延べ参加者数	人	444	307	360	700		
⑥成果		項目名	項目説明	単位	H 24	H 25	H26目標値	将来目標		
成果指標		1日あたりの参加者数(閉じこもり予防、再発防止、機能維持)	延べ参加者数÷回数	人	目標値 8	8	8	8		
					実績 5	4	<input checked="" type="checkbox"/> 実績拡大図 <input type="checkbox"/> 実績縮小図			
目標達成状況		どれだけ目標に近づいているかを達成率として示しています		%	達成率	64	46	↑どちらかをチェックしてください		
⑦改善点		平成25年度中に改善した点(どのように改善したか、それにより何がどうなったかを具体的に記載してください)		基礎コースでは、FIM(機能的自立度評価表)を利用し、日常生活の自立度を評価することとした。これにより日常生活の自立に向けての具体的な支援が明確になった。ステップアップコースは参加者の交流が活発になり、お互いに影響し合えた結果参加者全員が就労または作業所通所へとつながり、社会参加が可能となった。周知活動は引き続き実施している必要あり。						
⑧評価		評価	事業実施方法(複数選択可)	理由	今後、医療機関や介護保険による支援が困難な、若年の脳血管疾患発症者が増えることが考えられたため、リハビリの啓発活動と合わせて実施していく必要がある。					
		<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> その他	医療機関や介護保険による支援が困難な、若年の脳血管疾患発症者への閉じこもりを防ぎ、自立・社会参加を促すための機能訓練は、今後も重要事業である。					
		<input type="checkbox"/> 終了	次年度予算	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持						
評価		今年度の状況と今後の方向性		機能訓練事業は、健康日本21所沢市計画の“みんなだれでも”の事業と位置付けられ、主に中途障害者の在宅生活への移行期を支援し、閉じこもりを防ぎ、自立・社会参加を促し、再発予防や健康の自己管理について、啓発の視点もふまえて実施していく重要事業である。特に、若年者には、介護認定へ移行しないように就労も視野にいれ支援を行っていく必要がある。また、できるだけ多くの方が利用できるように周知活動の強化や関係機関との連携にも努める必要がある。						
評価日		評価者職氏名		健康づくり支援課 課長 岸 健次						
⑨環境影響		有益な環境影響	有害な環境影響を及ぼす原因活動	文書の作成		規制を受ける環境法令等	無			
						緊急事態	無			